

管轄地域内の大学における講義について

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、学校等の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害、又は死亡）に対して、災害共済給付（医療費、障害見舞金、死亡見舞金の支給）を行っています。

また、給付実績から得られた事故情報を整理・分析の上、外部有識者の知見をもとに事故防止のための様々な資料を作成しております。

今回は、名古屋学芸大学から依頼を受け、令和6年11月18、19日にヒューマンケア学部子どもケア学科幼児保育専攻の学生を対象に、JSCの取組、事故の傾向や事故防止対策について、成果物を用いて説明を行いました。

◆講義の概要

【JSCの取組について】

医療費や見舞金の給付だけでなく、災害共済給付の実施によって得られた情報を活用し、学校関係者が事故防止対策に活用できる情報を、学校や園といった教育現場に提供していることを説明しました。

【事故防止の留意点】

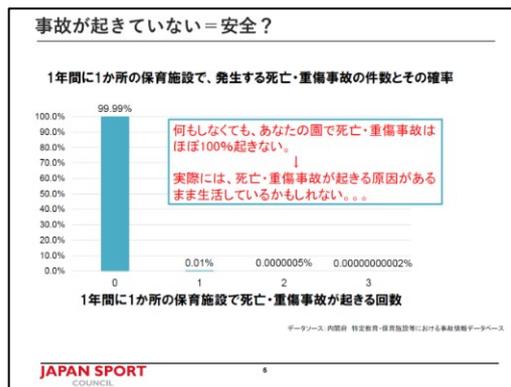
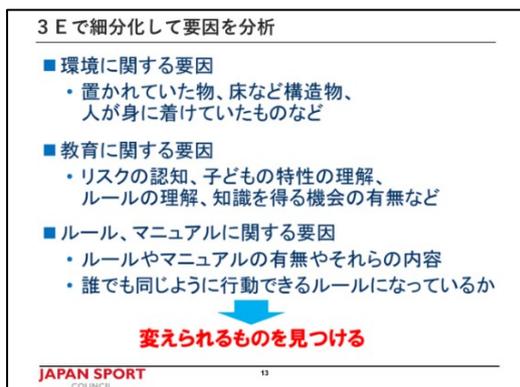
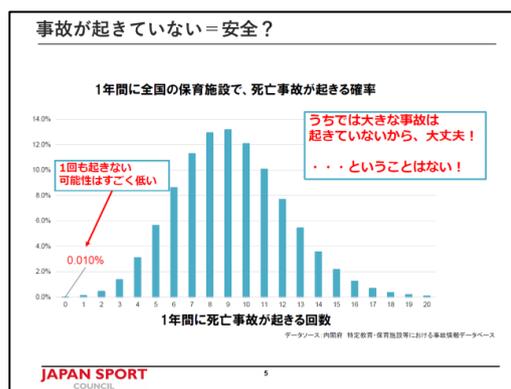
同大学幼児保育専攻には、保育士や幼稚園教諭を目指す学生が在籍しているため、乳幼児と関わる仕事をめざす上で、幼稚園・保育所等での生活の中で発生する災害について、過去の事例から学ぶ事故防止の留意点について説明しました。

はじめに、特定教育・保育施設等における事故情報データベースをもとに、「1年間に全国の保育施設で、死亡事故が起きる確率」と「1年間に1か所の保育施設で発生する死亡・重傷事故の件数とその確率」について説明しました。

次に、実際に起きてしまった重大事故を例にあげ、こういった重大事故を防ぐにはどうしたらよいか説明しました。



〈講義資料〉



説明後に、例題を用いてケーススタディを行い、学生のみなさんには、事故の要因を環境、教育、ルール・マニュアルに関するものに分類し、それぞれの要因について考えたことを発表していただきました。短時間の考察時間ではありましたが、すでに保育実習を経験した学生さんということで、活発的にグループワークを行っており、たくさんの意見を聞くことができたので、少しだけ紹介します。

〈例題1〉

保育者が昼食準備のため、調乳室から鍋に入ったスープを運んでいるとき、近づいてきた幼児を避けようとして転倒し、スープがこぼれ幼児にスープがかかり、目立つ傷跡が残った。

〈意見〉

- ・給食が完成した際に園児が座って待つことができたら、給食を運ぶようにする。
- ・給食準備中は着席させる。配膳する職員と園児を見守る職員の複数配置をする。
- ・手で配膳するのではなく、安定したワゴンで配膳し、スープが倒れないようにする。

【災害共済給付Webの活用方法】

過去の重大事故事例を調べる方法や、研修等で使える動画、事故防止パンフレット、フリーイラスト集等の紹介をしました。



【講義を終えて】

講義終了後、「事故防止の学びが深まった。」「フリーイラスト集があることを初めて知ったので、今後活用していきたい。」とのお声をいただきました。

【最後に】

名古屋支所管内の教育委員会や学校関係団体、幼稚園・保育所の関係団体の職員研修等や大学の教職課程において、「JSC職員から事故防止に関する話をしてもらいたい」等のご要望がございましたら、ぜひ名古屋事務所へご連絡ください。

＜参考資料＞

- ・ [災害共済給付Web](#)
- ・ [研修等で使える動画集](#)
- ・ [保育事故防止・対応ハンドブック](#)

【問い合わせ】日本スポーツ振興センター災害共済給付事業部名古屋支所
TEL : 052-533-7821 E-mail : saigaikyosai-nagoya@jpnspport.go.jp